

分 析 結 果

平成23年12月9日（金）

みずほ情報総研株式会社

社会経済コンサルティング部

1. 目的

- ・消費者のストレス状況とストレス解消法の実態について明らかにすること。
- ・消費者が日頃感じている花きの効用について明らかにすること。
- ・消費者の日頃の花きとの関わり方及び花きに対する意識について明らかにすること。

<調査項目>

- ストレス原因とストレス解消法、支出金額
- 家庭における花きとの関わり方
- 家庭内における花きの効用
- 花きのストレス解消効果
- 対人関係における花きの効用
- コミュニケーションツールとしての花の活用状況
- 家庭外での花との関わり方
- 家庭外における花きの効用

2. 調査対象

① 高校生対象調査

千葉日本大学附属高校の生徒91名（男57名、女34名）を対象に実施する。

② 高齢者対象実験

宮城県の富谷町シルバー人材センターに登録している元気高齢者100名（男女50名）を対象に実施する。

③ オフィス従業員対象実験

みずほ情報総研株式会社の社員104名（男63名、女41名）を対象に実施する。

3. 回収状況

以下、回収状況である。

調査種別	配布数	有効回収数	回収率
高校生	91	91	100%
高齢者	100	100	100%
オフィス従業員	104	104	100%

■ まとめ

(1) ストレス状況について【P3. (1)①、P4. (2) ①、P5. (3)①】

- ・ ストレスを感じる状況は、高校生は「進路・学習内容」が、オフィス従業員は「仕事の内容」が最も多かった。高齢者は、「職場や仕事上での人間関係」が最も多かった。

(2) 家庭における花について【P3. (1)②、P4. (2) ②、P5. (3)②】

- ・ 家庭における花の有無は、いずれの対象者でも「鉢植えの生花・観葉植物を飾っている」が最も多かった。

(3) 花から得られる効用について【P3. (1)③、P4. (2) ③、P5. (3)③】

- ・ 生花・観葉植物から得られる効用としては、いずれの対象者でも気持ち・行動の面では「心が癒される」が最も多く、空間の面では「季節感が出る」が最も多い。
- ・ 花と他のストレス解消法を比較して、花の方が効果が高いと応えた回答者の比率は、高校生が約2割、高齢者が約9割、オフィス従業員が約4割である。
- ・ 花もたらずイメージアップ効果については、「マメな人である」「清潔感のある人である」「思いやりのある人である」が上位である。

(4) 花贈りについて【P4. (2) ⑤、P5. (3)⑤】

- ・ 花を贈ったことのある回答者の多くが、その頻度は年に1回程度である。
- ・ 花と他の贈り物との比較について、「他のものより嬉しい」と答えた回答者は、高校生が1割未満、高齢者が約2割、オフィス従業員は1割強である。

(5) 家庭以外の生活環境における花について【P3. (1)②、P4. (2) ②、P5. (3)②】

- ・ 教室に花があると答えた回答者は約2割、職場に花があると答えた回答者は約3割である。
- ・ 教室における花の効用としては、気持ち・行動の効果として「心が癒される」が最も多く、空間に対する効果としては、「季節感が出る」が最も多かった。
- ・ 教室に花があったほうがよいと答えた回答者は約2割であった。
- ・ 職場における花の効用としては、気持ち・行動の効果として「心が癒される」が最も多く、次いで「いらつきが軽減される」となっており、空間に対する効果としては、「室内環境が快適になっている」が最も多い。
- ・ 職場に花があったほうがよいと答えた回答者は約半数であった。

(1) 高校生について

① ストレス状況について

- ・ストレスを感じる状況としては、「学習内容・進路」が最も多く、次いで「友人・知人・恋人等との人間関係」となっている。
- ・リラックス用品に月々かけている金額は平均 1137 円、標準偏差で 696 円である。

② 家庭における花について

- ・家庭における花の有無については、「鉢植えの生花・観葉植物を飾っている」が最も多く、次いで「家庭でガーデニング・家庭菜園をしている」となっている。
- ・家庭における花きの購入者・管理者は、いずれも「家族」が圧倒的に多く、自ら購入・管理している回答者はほとんどいない。

③ 花の効用について

- ・生花・観葉植物から得られる効用としては、気持ち・行動の面では「心が癒される」が最も多く、空間の面では「季節感が出る」が最も多い。
- ・花と他のストレス解消法を比較して、花の方が効果が高いと応えた回答者の比率は 15%である。
- ・花がもたらすイメージアップ効果としては、「清潔感がある人だと思う」が最も多く、次いで「マメな人だと思う」となっている。一方、「特に何も感じない」と応えた回答者も 23.1%いる。

④ 花贈りについて

- ・花を贈った経験がある回答者は、約 6 割過半数に達しているが、そのうち約 4 割は年に一回程度と回答している。
- ・花を贈った場面としては、「母の日や父の日の贈り物に」が最も多く、次いで「コンサートや発表会の贈り物に」となっている。
- ・花・観葉植物の贈られた経験があると応えた回答者は約 4 割であった。その過半数は年に一回程度であると回答した。
- ・花を贈られた場面としては、「コンサートや音楽の発表会での贈り物に」が最も多かった。
- ・バレンタインに花を贈られたいと応えた女性回答者は約 3 割であった。

⑤ 教室における花について

- ・教室に花があると応えた回答者は 15.4%であった。
- ・教室で生花・観葉植物を飾っている人は、「生徒」が約 6 割である。
- ・教室における花の効用としては、気持ち・行動の効果として「心が癒される」が最も多く、空間に対する効果としては、「季節感が出る」が最も多い。
- ・教室に花があったほうがよいと答えた回答者は約 2 割であった。

(2) 高齢者について

① ストレス状況について

- ・ストレスを感じる状況としては、「職場や仕事上での人間関係」が最も多く、次いで「持病による痛みなど」「家族との関係」となった。
- ・リラックス用品への支出は平均 2752 円で、標準偏差が約 2128.3 円となった。

② 家庭における花について

- ・家庭における花の有無については、「鉢植えの生花・観葉植物を飾っている」が最も多く、次いで「家庭でガーデニング・家庭菜園をしている」となっている。
- ・家庭における花きの購入者・管理者は、いずれも「自分」が圧倒的に多い。
- ・家庭内に花があったほうがよいと答えた回答者は、50%であった。
- ・家庭以外で花に親しむ機会は、散歩が最も多く、次いで買い物となった。

③ 花の効用について

- ・生花・観葉植物から得られる効用としては、気持ち・行動の面では「心が癒される」が最も多く、空間の面では「季節感が出る」が最も多い。
- ・花と他のストレス解消法を比較して、花の方が効果が高いと応えた回答者が圧倒的過半数であった。
- ・花がもたらすイメージアップ効果としては、「思いやりのある人だと思う」が最も多く、次いで「マメな人だと思う」「清潔感がある人だと思う」となっている。「特に何も感じない」と応えた回答者はほとんどいなかった。

④ 花贈りにについて

- ・花を贈った経験がある回答者は、約 7 割と過半数に達しているが、そのうちの約 5 割の回答者は年に一回程度と回答している。
- ・花を贈った場面としては、「葬儀・法事の供養花に」が最も多く、次いで「家族や知人・友人の誕生日や結婚式の贈り物に」「病気や怪我をした友人・知人へのお見舞いに」となっている。
- ・花・観葉植物の贈られた経験があると応えた回答者は 7 割であった。そのうち約 5 割は年に一回程度であると回答した。
- ・花を贈られた場面としては、「母の日や父の日の贈り物に」が最も多かった。次いで、「家族や友人・知人からの誕生日や結婚式の贈り物として」となっている。
- ・バレンタインに花を贈られたいと答えた女性回答者は約 6 割である。
- ・他の贈り物と比較して「特に嬉しい」と答えた回答者は約 2 割である。

(3) オフィス従業員について

① ストレス状況について

- ・ストレスを感じる状況としては、「仕事の内容」が最も多く、次いで「職場や仕事上での人間関係」となった。
- ・リラックス用品への支出は平均 3631 円で、標準偏差が 5338 円となった。

② 家庭における花について

- ・家庭における花の有無については、「鉢植えの生花・観葉植物を飾っている」が最も多く、次いで「生花・観葉植物はない」となっている。
- ・家庭における花きの購入者・管理者は、いずれも「家族」に多い。

③ 花の効用について

- ・生花・観葉植物から得られる効用としては、気持ち・行動の面では「心が癒される」が最も多く、空間の面では「季節感が出る」が最も多い。
- ・花と他のストレス解消法を比較して、花の方が、効果が高いと応えた回答者の比率は約 4 割である。
- ・花がもたらすイメージアップ効果としては、「マメな人だと思う」が最も多く、次いで「思いやりのある人だと思う」「清潔感がある人だと思う」となっている。

④ 花贈りについて

- ・ほとんどすべての回答者が花を贈った経験があるが、4 割弱がめったに贈らない、4 割強が年に一回程度しか贈らないという結果になった。
- ・花を贈った場面としては、「母の日や父の日の贈り物として」が最も多く、次いで「家族や知人・友人の誕生日や結婚式の贈り物に」となっている。
- ・ほとんどの回答者が花・観葉植物の贈られた経験があるが、約 5 割がめったに贈られない、約 4 割が年に一回程度であると回答した。
- ・花を贈られた場面としては、「家族や友人・知人からの誕生日や結婚式の贈り物として」が最も多い。
- ・バレンタインに花を贈られたいと答えた女性回答者は約 6 割と過半数である。
- ・他のものよりも嬉しいと答えた回答者は約 1 割である。

⑤ 職場における花について

- ・職場に花があると応えた回答者は約 3 割であった。
- ・職場で生花・観葉植物を飾っている人は、「会社が福利厚生の一環として飾っている」が約 6 割である。
- ・職場における花の効用としては、気持ち・行動の効果として「心が癒される」が最も多く、次いで「いらつきが軽減される」となっており、空間に対する効果としては、「室内環境が快適になっている」が最も多い。
- ・職場に花があったほうがよいと答えた回答者は約半数であった。
- ・花を飾ることへの個人的な支出可能金額は、「500 円以内」が約半数である。